

初 福智町交流少年野球大会 大会に町の野球少年が勢ぞろい

初めての町内少年野球チームによる交流大会が6月23日から2日間、赤池球場・金田球場・赤池グラウンドで開かれました。赤池ジュニアベアーズ、上野イーグルス、市小ガッツ、金田ジュニアクラブ、福智スラッガーズの5チーム104人が参加。上級生は総あたり、下級生はトーナメント戦で行われ、順位のない親善試合で白球を追いましました。



↑ベンチのサインはスクイズ、素早く反応する走者とボールに食らいつく打者。

↓教育長室で3校に図書券を贈呈、右から山本真前会長と戸次光生前会計。



旧赤池町子ども会育成連絡協議会が3校に寄贈 役員が貯めた48万円を図書券にして

旧赤池町子育連が、運営費の残金48万円を上野小・市場小・赤池中に寄贈しました。7月13日に16万円分の図書券を3校それぞれに贈呈。山本真前会長が「町の助成が1万5千円という状況下で、14年前から役員の皆さんが文化祭で綿菓子や焼きそばを売って貯めたお金です。大切に使ってほしい」と、願いを伝えながら各校長に手渡しました。

全 金田ジュニアクラブが町長表敬訪問 全国大会出場に力強く健闘誓う

8月3日～7日に徳島県で開かれる全国大会「大鳴門橋学童軟式野球大会」の出場が決まった金田ジュニアクラブが、7月18日に浦田弘二町長を訪ね、力強く抱負を伝えました。浦田町長が「ケガのないようチームワークと力を発揮してください」と激励。主将の石橋優徳くん（金田小6）が「一戦一戦勝ち抜いて、上を目指します」と健闘を誓いました。



↑ユニホームに身を包み浦田町長と対面、整列した16人の選手たち（町長室で）

↑横断歩道を笑顔で渡った後は「飛び出しません」「信号を守ります」とお約束。



手 4園合同交通安全教室 をあげて上手に渡れたよ

上野・市場・赤池・中尾の4保育園合同による交通安全教室が、7月4日に中央公民館で開かれました。田川警察署と田川交通安全協会赤池支部が主催し、4～5歳児154人が参加。女性警官2人による交通ルールの楽しい紙芝居の後、3人ずつ横断歩道の実習を行いました。「右・左・右」と、みんな上手に手をあげて安全確認、元気に渡りました。

↓口元をキリリとひきしめ、真剣な表情で土に向かう子どもたち。48人が創造力を生かして形作りました。



上野焼作陶教室 伝統と歴史をかみしめながら

上野焼作陶教室が6月24日に中央公民館で開かれました。福智町子ども会育成連絡協議会が主催し、上野焼協同組合の窯元が手ほどき。400年の歴史が説明された後、子ども48人、保護者15人の参加者が、8班に分かれて作陶しました。子どもたちは土を手動のろくろ台にのせ、指導者5人の手助けを受けながら、カップや皿など、思い思いの作品を手ひねりで成形。作品は上野焼窯元で、乾燥、釉掛け、焼成などの工程を経て完成します。

同 人権街頭啓発 和問題啓発強調月間を呼びかけ

和問題啓発強調月間ははじまったばかりの7月2日に街頭啓発が行われました。スーパー方城、ふじ湯の里、金田駅前、日王の湯、スーパー川島の町内5か所で、町職員らが啓発チラシと啓発タオルを配布。一人ひとりに手渡ししながら、人権尊重と啓発行事への参加を呼びかけました。また、企業訪問や職員研修も行い人権意識の向上を図りました。



↑金田新町商店街の各店舗を回り、人権尊重を呼びかける浦田弘二町長。

↑タイム計測は緊張しましたが、息のあった終盤には笑顔がこぼれました。



米 伊方小5年生総合的な学習の時間 米づくりの視点から命のつながり学ぶ

伊方小5年生の田植えが、6月20日に伊方野添の田んぼ（佃健二さん所有）で行われました。一列に並んだ74人が同じリズムを保てるよう、1回植えるごとにタイムを計測。餅米の苗を約7畝の田んぼに息を合わせて植えました。今後、収穫、しめ縄づくり、餅つきと、年間を通じた活動が進められ、米づくりの視点から命のつながりを学んでいきます。